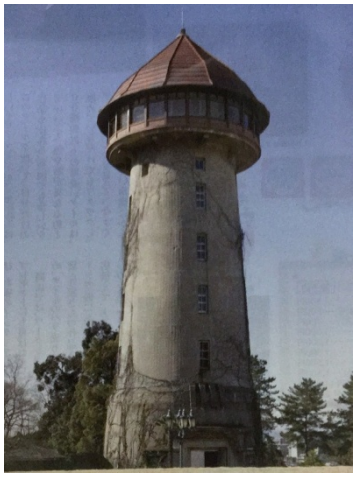
東山給水塔

写真上は「千種区咲楽」(2015 年 3 月)というフリーペーパー掲載の東山給水塔であり、「千種区ブランド」として紹介されている。覚王山日泰寺の北側にそびえ立つ東山給水塔。



この東山給水塔は昭和 5(1930)年、東山配水塔として建てられた。写真下は建設当時のもので、煙突のような白い筒型であった。配水塔とは、浄水場でつくられた水道水を、その高さを利用して家庭などに送る施設である。名古屋の都市化にともない、東部丘陵地帯が住宅地として急速に発展したため、配水塔から水道水を供給することになった。昭和 48(1973)年、東山配水塔が配水していた区域が、猪高配水場の区域に切り替えられることになった。これにより、配水塔としての役割を終えた。

昭和 54(1979)年、災害対策用の応急給水施設として生まれ変わった。貯水タンクには常に約 300 ㎥(1 日 1 人 3ℓとして約 10 万人分に相当)の新しい水を貯え、いざというときに備えている。58（1983）年には建物もリニューアル。史跡が多いこの地域の景観に溶け込むよう、とんがり屋根が設置された。

東山配水塔には思い出がある。小学校 5 年の時に、千種小学校から高見小学校に転校した。千種本町の「鉄道官舎」から高見町の「国鉄アパート」に転居したためだ。高見小学校の東の方に東山配水塔が見え、学校のシンボルのようであった。クラスの文集のタイトルが、「はいすいとう」であった。大切に取っておいた文集だが見つからない。その代わりに、高見小学校の「卒業記念アルバム」が出てきた。今とは違って、薄い冊子である。教職員とクラスごとの集合写真などが掲載されている。上の写真は、当時の校舎であり、木造 2 階建てで風格を感じさせる。この校舎から、東の高台に「はいすいとう」がよく見えた。フリーペーパーの特集から、遠い昔を思い出すことができた。

(2015 年 3 月 8 日)